

「第11回韓日未来フォーラム in 島根」に参加して

日時：2019年8月13, 14, 15, 16日

場所：島根県サンレイク

名城大学人間学部人間学科 竹内未来



2019年8月13日（火）まで16日（金）から3泊4日、島根県で行われた韓日未来フォーラムに、今回初めて参加した。偶然、インターネットでこのフォーラムが開催されることを知り、現在、大学4年生である私は今年が参加できる最後の機会になると思い、一人参加を決めた。

普段、仲のいい韓国人の友人とも日韓関係のセンシティブな問題に関してはタブーではないが、お互いに深く意見を交わすことは容易ではなかった。そのため自分自身がメディアを通して知っていることに関して、実際どうなのか直接討論や発表を通して知ることかできる今回のような機会は非常に貴重であると感じた。

1. 討論・発表に関して



私は「在日朝鮮・韓国人」「徴用工」「ジェンダー・フェミニズム」「日韓観光産業」という4つのテーマのうち、「ジェンダー・フェミニズムチーム」に参加をした。このテーマを選択した理由は、韓国留学中にここ最近韓国ではフェミニズム運動が盛んであることを知り、日本とは異なる現状に興味を持ったからだ。そして、『82年生まれ、キム・ジョン』というフェミニズム小説を読んだことをきっかけに、卒業論文のテーマを「韓国のフェミニズム」に設定し、現在作成している最中である。

私たちは、討論の時間の話し合いを通して、日韓共に男女に対する固定観念が根強く存在していると感じ、それが原因でセクハラなどの問題が生じているという話になった。また、その固定観念は無意識的に幼い頃から作られるものであり、現代社会においてはメディアの存在が大きく関わっているのではないかと考えた。今やメディア無くして生活をするのは難しいため、幼い頃からメディアを正しく活用する方法を学習し、ジェンダー差別への意識改革を学校教育のなかで学ぶことにより、ジェンダーに対する認識を少しずつ変えることができるのではないかと結論付けた。

発表の質疑応答の時間に少し話題に出たが、日本では東京医科大学の入試差別事件が起きた際、差別が公になったとしても大きくデモや反対運動が起こるといったことがあまりないという状況である。その点が日本と韓国の違いであると感じていたが、今回の討論を通して改めて日本のジェンダー問題の対する取り組みについて考えていく必要があると感じた。今回ジェンダー・フェミニズムチームとして韓国人学生と直接意見を交わし、論文やインターネットなどのメディアを通してではなく、生の意見を聞くことができたことは、今後の自分の研究に役立つとてもいい経験になった。また、短い時間の中でしっかりと意見を出し合い、発表準備を協力して完成させることができ、とても良いチームワークであったと感じた。

2. 実際の活動とメディアの報道に関して

この3泊4日を通して他の参加者から多くの刺激を受けた。日韓における歴史や政治などに関する自分の知識不足を感じると共に、韓国語のレベルに関しても今後これまで以上に勉強する必要があると痛感した。また、直接面と向かって会話をすることで、互いの国に関しての新しい事実や誤解があることがわかり、日韓関係の改善には、民間交流が大切であることを身をもって体感した。

今回は日韓関係があまり良くない状況での日韓交流ということもあり、メディアの取材も多くあった。実際には、私たちのような大学生ができることは限られており、直接的な改善につながる力を持っているものではないのかもしれない。けれども、メディアに取り上げてもらうことで私たちの交流の経験を少しでも多くの人に知ってもらい、日韓の実情や間違っていた認識を改めてもらうきっかけになるかもしれないと期待をしていた。しかし残念ながら、あまりいい反応がなかったように感じた。今回の経験が私自身の中でも認識を変えるいい機会になったため、世間の反応やメディアの取り上げ方を残念に思い、悔しいと感じた。私にできることは少ないかも知れないが、今後も自分自身が日韓における正しい情報を理解し、それを諦めずに発信し、それを積み重ねていくことで、少しずつ世の中の認識を変えていくことができるのではないと思う。



私は、韓国ソウルへの語学留学から帰国した直後でもあり、韓国との関わりが減ってしまうということに少し不安を感じていたので、日本で韓国と関わることができ、理解を深める活動をすることができて、今回積極的に参加をして、心から良かったと思う。また、実行員の方々が準備してくださったゲームやフィールドワークのようなグループ活動によって、多くの参加者と話す機会があり、短い時間の中で仲を深めることができた。参加者全員と深く関わるができなかったということが少し残念ではあるが、今後も連絡を取り合うことのできる多くの友人を作ることができた。



最後に、このような日韓関係の状況で韓国にいる家族や友達からの不安の声もあったかも知れない中、韓国から日本に来てくれた韓国人大学生の皆さん、そしてこのフォーラムの事前準備をしていただき、円滑に進めてくださった実行委員の方々に感謝したい。また、機会があれば是非参加したいと思う。